

日時	令和5年7月13日（木）14時30分～16時
場所	尾西生涯学習センター6階大ホール
出席者	委員13名（鈴木、春日井、土川、長谷川、小島、町田、五藤、伊藤之、芳賀、江藤、伊藤実、藤原、森）

1 開会のことば

2 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

3 報告事項

(1) モデル事業に関するアンケート調査の結果について

○ 事務局から以下のように報告があった。

- ・対象は中学1，2年生、期間は6月の1週間、5,541名の回答があった。バレーボールのモデル事業について、706名の生徒が希望すると回答。サッカーは548名、柔道は276名、剣道は417名、吹奏楽は627名の生徒が希望すると回答した。
- ・希望しない理由については、「興味のない種目だから」という回答が一番多く、次に「費用がかかるから」という回答が多い。その他の意見については、「めんどくさい」や「友達がいないから」などが多くあった。

4 協議

(1) モデル事業（5つのモデルケース）について

① 開催方法

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・今年度は、5つのモデルケースを行っていきたい。① プロチームによるモデル（バレーボール）、② 連盟とコラボして行うモデル（サッカー）、③ 私立中学校によるモデル（柔道）、④ 総合型地域スポーツクラブによるモデル（剣道）、⑤ 県立高校によるモデル（吹奏楽）

○ 課題は多くあるが、例として「活動場所」と「保護者負担」があげられる。「専門的な指導」と「保護者負担」の両方を考え、3年後を見通した持続可能な事業となっているかを考えていかなければいけない。

② 検証内容

○ 事務局から以下のように提案があった。

- ・検証をするうえでのポイントとしては、「事業のねらいは何か」、「内容はどうか」、「方法はどうか」の3点。
- ・検証内容の視点については、「持続可能な事業になっているか」「実施する地域の団体から見て、良かった点や課題点は何か」「保護者負担について不必要な出費はないか」「移動手段はどうか」「参加生徒による事後アンケートの満足度や意見」「事務局としての各団体との関わり方」等について検証を行い、令和6年度のモデル事業の参画条件に盛り込んでいきたいがどうか。
- 参加する生徒の人数によって運営上、保護者負担も変わってくると考えられるが、市としてある程度、負担金がどれくらいになるのか決めておかないといけない。新たな事業者の参入の可否や参加者の判断材料にもなると考える。
- バレーボールの希望は多く、1つのプロチームだけでは賄いきれない。保護者負担も含め、ある程度、団体ごとにちがいがあっても受け皿を増やしていかないといけない。持続をしていくためには費用対効果を考え、負担金等、選択の幅があってもよいと思う。
- 予めアンケート項目（送迎・大変だったこと・満足度・会費）を保護者に伝え、その視点でモデル事業を見たり、子どもと話をしてもらったりすると、後で検証しやすいのではないかとよい。
- 事業者、スタッフ、先生、子ども、保護者、会場校等に事後アンケートを取り、本来の地域移りのねらいに内容が妥当だったか、内容に見合う費用だったのかも検証していくとよい。
- どうしても教員の働き方改革が話題にあがってしまうが、活動の種類の選択肢を増やす等、子どもたちのために本来やるべきことをやっていかないといけない。
- ねらいや目的を見失わないように、「目的」「内容」「方法」を常にリンクさせながらすすめていく必要がある。

(3) その他

- ・特になし

5 一宮市教育委員会あいさつ

6 閉会のことば